

口腔ケアから全身の健康へ 医歯連携 プロジェクト研究センター始動



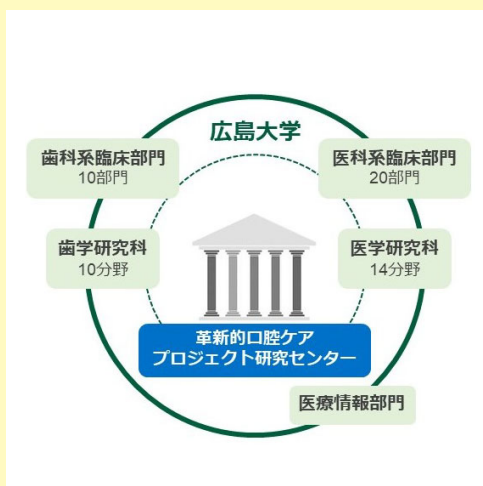
ジョンソン・エンド・ジョンソンが 研究に協力





革新的病院口腔ケアプロジェクト研究センター

臨床 + 基礎研究 国内初の組織



広島大学は、大学病院に「革新的病院口腔ケアプロジェクト研究センター」を組織しました。口腔ケアによる院内感染予防などを目的に、医科と歯科の臨床系診療部門が連携、さらに大学院医系科学研究科の細菌学教室、疫学・疾病制御の基礎研究部門、医療データの解析部門なども一体となった国内外でも初の包括的な研究センターです。8月23日には、柿本直也主席副病院長、谷本幸太郎歯学部長、プロジェクト研究センター長を務める河口浩之教授（口腔総合診療科）、循環器内科の中野由紀子教授、研究に協力していただくジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社コンシューマーカンパニーの関係者らが出席して記者発表を行いました。

■ 米国で成果「セルフ口腔ケア」を検証

柱になる研究の一つは、米国で広がっている「セルフ口腔ケア」プログラムによる合併症予防効果などについての基礎的・臨床的研究です。オーラルヘルスに関して先進的研究を行うジョンソン・エンド・ジョンソンから口腔ケアグッズの提供を受け、2023年3月までに、1週間以上の入院をする患者5000人が対象です。グッズを渡し、患者自身が口腔ケアをする重要性などを指導、継続してもらいます。米国ではある病院で「セルフ口腔ケア」による院内肺炎予防プログラムが、院内肺炎発生率を37%抑えたとの成果が報告されました。この取り組みを全米100以上の医療機関に拡大、院内肺炎は40～60%減少し、それは年間2億ドル以上の医療費削減につながるとの報告が出ています。センターとして日本で初めてこの取り組みを導入し、ジョンソン・エンド・ジョンソンの協力を得ながら効果を確認します。

他にも患者から採取したデンタルプラークを分析、口内細菌叢と特定の病気との関係を調べていきます。それにより、これまでに明らかになっていない新たな研究テーマにつながる可能性も探ります。また、他の医療機関とも連携して効果的な口腔ケアプログラムの開発・普及などを今後の研究テーマとしています。



患者さんへの指導



オーラルケアセット

■ 口腔ケアで合併症発症が減少

口腔ケアに関しては、今年6月に、医療費削減を目的に政府の骨太の方針に国民皆歯科健診が検討事項として掲載されるなど、全身疾患との関係に注目が集まっています。実際に、30代以上の3人に2人が発症していると言われる歯周病は、患者の誤嚥性肺炎などさまざまな合併症の発症に大きく関係していることが明らかになっています。さらに、治療中に口腔ケアを行うと、肺炎などの合併症の発症が減少し、平均入院日数が少なくなったことも報告されています。こうした研究結果がある一方で、入院患者本人および医師における口腔ケアの重要性の認識はまだまだ低い現状があります。

■ 10年超す連携の成果 さらに発展へ

広島大学病院では、2010年から口腔管理による感染症予防へ向け、連携チームを発足させ医歯連携を進めてきました。連携前は医科から歯科への患者紹介は月に10件以下でした。院内外でセミナーを開くなど地道にアピールを続け、現在は月300件を超えるまでになっています。これらを通して口腔ケアが入院中の発熱や疾患の予後改善につながることを明らかにしています。歯周病菌が多いケースでは脳卒中発症後の身体機能の自立度が悪いなど具体的な研究成果も出ています。ただ、退院後は口腔ケアが長続きしないことが課題の一つでした。それだけに、セルフ口腔ケアは退院後も持続可能なプロジェクトとして期待されています。



口腔ケアセミナーの様子

国民皆歯科健診は、早期の歯科治療、予防歯科の意識の浸透を通して健康寿命を延ばし、医療費の削減も期待されています。そのためにも口腔ケアと病気や健康との科学的根拠を分かりやすく示すことが求められています。センターは口腔ケアと全身疾患との関係を明らかにすることで、口腔ケアへの関心を高めることが狙いの一つです。

口腔ケアプロジェクト研究センター長の河口教授コメント

定期歯科健診の受診増へ情報提供進める



定期的に歯科健診を受ける割合は、アメリカでは80%に達していますが、日本ではわずか2%との報告もあります。この数字を上げるには口腔がかかわる病気や健康との関係を分かりやすく理解してもらうことが大切です。センターでは広島大学を挙げたプロジェクトとして研究を通じて、これらの科学的根拠をしっかりと示していきます。セルフ口腔ケアでは、退院後もモチベーションが維持できるよう環境を整え、情報提供などを通じて日常での口腔ケアの利点をアピールしていきます。

ニュースアップ

膝の半月板再生へ医師主導治験スタート

広島大学大学院医系科学研究科(整形外科学)安達伸生教授らが半月板損傷を対象にした再生医療の医師主導治験を令和4年8月から開始しました。三洋化成工業株式会社(京都市)が開発した機能性タンパク質「シルクエラスチン」をゲル状にして半月板断裂縫合部に適用し癒合、再生を促します。7月25日には、安達教授や三洋化成の関係者らが出席して記者説明会を開きました。

膝をはじめとする関節の機能は、加齢や肥満により低下することで運動機能低下のリスクを生み、いわゆる「ロコモティブシンドローム」に大きく影響を及ぼします。特に歩行を司る膝関節の軟骨や半月板は重要な組織です。しかし、加齢やスポーツなどにより、軟骨や半月板が変性、損傷するなどした場合、変形性膝関節症につながり、日常生活にも支障をきたします。膝関節の軟骨については近年広島大学からスタートした再生医療が進んでいますが、半月板は血行に乏しく一度損傷すると修復されにくいことから、やむを得ない場合は半月板を切除する治療が主流でした。このため、膝関節軟骨と半月板の双方を再生する“究極の根治”をコンセプトに掲げて2017年から、両者で共同開発を進めてきました。治験は来年3月まで、8歳以上60歳未満の8人を対象に予定しています。



小児病棟の子どもたちに沖縄美ら海水族館から遠隔授業

「ジンベエザメは何歳まで生きますか」「今は40歳ぐらいですが、100歳以上まで生きるといわれています」。こんなやり取りがあったのは、広島大学病院の小児病棟。7月28日、沖縄県の沖縄美ら海水族館と結んだ遠隔授業があり、プレイルームには入院中の十数家族が集まりました。また病室から直接つないで、授業に参加した子どもたちもいました。ゆうゆうと巨大水槽内を泳ぐジンベエザメのジンタ君を中継で眺めながら、飼育員さんとクイズ形式の授業を楽しみました。

水族館が病院などを対象に募集した企画に応募しました。中継がつながると、プロジェクターに映し出されたのは、水槽の中で体長約10メートルのジンタ君が餌を食べるため水中に立ち上がったように見える画像。子どもたちも驚いた様子でした。飼育員さんから「ジンベエザメの大きさは」「食べているのは小さな餌? 大きな餌?」などの質問に手を挙げて答えていました。質問コーナーでも「寿命は」「仲良しの魚は」など次々に聞いていました。

広島大学病院は中四国唯一の小児がん拠点病院として、多くの子どもたちが治療に取り組んでいます。



栄養管理部
情報

減塩のコツ!



担当した管理栄養士

いくつ当てはまりますか?

- 漬物や梅干しを1日2回以上食べる
- 味噌汁・スープを1日2杯以上食べる
- 料理に醤油やソースをかける
- 外食や惣菜・コンビニ弁当をほぼ毎日利用する

食塩摂取量の
目標値
(健康な成人)

男性:7.5g未満
女性:6.5g未満

一つでも
当てはまる方は

塩分の摂りすぎ
かもしれません。

ポイント① 塩分の多い食品を抑える

漬物、佃煮、干物、練り製品(かまぼこ、ちくわ、ソーセージ)、インスタント食品などの加工品は塩分が多いことを意識しましょう。

減塩のポイントを
みていきましょう。

きゅうり
ぬか漬(5切)



約1.6g

ちくわ・中
(1本)



約0.7g

味噌汁(1杯)



約1.5g

ラーメン
(1杯汁を含む)



約6~7g

塩鮭・中辛
(1切)



約1.1g

ポイント② 香辛料・酸味・香りを利用する

塩味以外の味を効かせることで、味気なさを軽減させましょう。

香辛料



酸味



香り



ポイント③ 惣菜はひと手間加える

惣菜は半分にし2回に分けて食べましょう。野菜を加えることでボリュームアップさせます。減塩になり、野菜で食物繊維が摂れます。



+



減塩は「ただ薄味にする」だけではありません。
少しの工夫で日頃から減塩を意識してみましょう。



診療科最前線

「眼科」

(診療科長:木内良明教授)

▶ 診療科の特徴

眼科では、物を見ることに直接影響する眼球や視神経はもちろんのこと、その周囲の眼瞼(がんけん=まぶた)、さらには眼窩(がんか=眼球などが収まっている骨のくぼみ)内全般の病気について診療を行っています。



▶ 患者さんの動向

1日平均130人程度の外来患者さんを診療しており、うち10人強が初診の方です。初診患者さんは他院眼科からの紹介が7割強で、院内紹介が1割強となっています。他院からは手術依頼で紹介いただくケースが多くなっています。手術件数は年間で約2,400件です。

▶ 得意分野

大学病院として専門医による専門性を生かした診療を行っています。

緑内障診療:年間約700件の手術を行っており、全国的にもトップクラスです。2021年のDPC適用件数は第1位でした。診断や治療の難しい小児緑内障の専門外来を設け

ています。

角膜診療:県内で数少ない角膜移植を行う施設として年間約80件の移植手術を行っています。2021年のDPC適用件数は全国第5位でした。

網膜診療:網膜剥離などの緊急疾患にも対応し、年間約600件の手術を行っています。2020年の硝子体手術件数は、中四国の病院の中で第3位でした。

ぶどう膜炎診療:眼内の炎症に対して、ステロイド以外に免疫抑制薬(内服や注射)による治療を行っています。

眼窩診療:市中病院では対応困難な眼窩骨折や眼窩腫瘍の手術を年間約30件行っています。

▶ かかりつけ医との連携

当院で専門的な治療を行ったあとは、可能な限り紹介元での診療に戻っていただけるように連携をとっています。

▶ 新しい動き

角膜の病気に対して自家培養角膜上皮(患者さん本人の角膜幹細胞をシート状に培養したもの)による治療を行っています。また、加齢黄斑変性症や糖尿病黄斑浮腫での眼内注射に使われる抗体薬は、新薬の開発によって効果の持続が長くなり、投与間隔を延ばせるようになっています。



催しのご案内

(2022年10月~12月)

自宅で学べる肝臓病教室

「知ってる?B型肝炎」

公開日:公開中

講師:消化器・代謝内科医師 藤野 初江

「肝疾患における薬剤について(仮)」

公開日:12月12日(月)~通年公開

講師:薬剤師 上代 大地

開催方法:肝疾患相談室ホームページからの視聴

(講演動画配信)

HP URL: <http://shounai.hiroshima-u.ac.jp/counseling/>

(「広大 肝臓病教室」で検索)

申込:不要

問い合わせ:肝疾患相談室 ☎082-257-1541(10:00~12:00 13:00~16:00)



がん治療を支える患者サロン

治療費が心配 お金と制度について

10月20日(木) 13:30~14:30

会場:臨床管理棟3階 3F2会議室/Zoom

講師:がん相談員 社会福祉士 瀬尾 あゆみ

がんと食事について

12月15日(木) 13:30~14:30

会場:臨床管理棟3階 3F2会議室/Zoom

講師:栄養管理部 管理栄養士 天野 加奈子

申し込み・問い合わせ:がん相談支援センター ☎082-257-1525

・新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインのみとなる可能性があります。

・会場での参加者は先着10名